

# 私たちは、六ヶ所再処理工場を 動かさないよう訴えます。

いま、青森県の太平洋岸に位置している六ヶ所村に、  
使用済み核燃料の「再処理工場」が建設されています。

これは、原子力発電所で燃された後の核燃料を溶かし、燃え残りの  
ウランとプルトニウムを、高レベル放射性廃棄物と分けて取り出す工場です。

近くウランを使った試運転に入り、来年四月には実際の燃料を使う本格的な試運  
転の開始が計画されています。

**いったん工場が運転され、放射能で汚染されてしまうと、後始末はとてむやっかい  
なものになります。**

**そうなる前に止めたい、というのが私たちの願いです。**

再処理工場は、ウランとプルトニウムを回収して、ふたたび発電に利用するための  
ものといわれていますが、プルトニウムを使った発電は、ふつうの原子力発電所より  
さらに危険です。このため、反対の声が大きく、未だに実現していません。ウランに  
ついては、本格的な利用計画すらありません。

この時代に、使いみちのないプルトニウムを貯めておけば、「日本は核武装をする  
つもりか」と世界のひとたちから疑いの目でみられ、対抗して核武装をする国をつく  
りだしかねません。

**使えないものをつくる必要はないのです。**

再処理工場が一日動く、原子力発電所一年分の放射能が出るといわれています。  
ふだんから地域を汚染し、いったん大事故が発生すれば、地球規模の被害をもたらし  
ます。

この再処理工場の総事業費は、十一兆円にもなると試算されています。  
いま建設を中止すれば、三分の一か四分の一くらいの無駄ですみます。

それでもたいへんな額ですが、危険なことは一刻も早くやめるのが賢明というも  
のです。事業をつづけければ、さらに巨額な費用がかかり、働く人を被曝させ、地域を  
放射能で汚染し、大事故ばかりか核拡散の危険をつくり、将来に禍根を残します。

**この再処理工場の建設をただちに止めることこそ、日本の将来の平和を保証し、子  
どもたちを守るのです。**

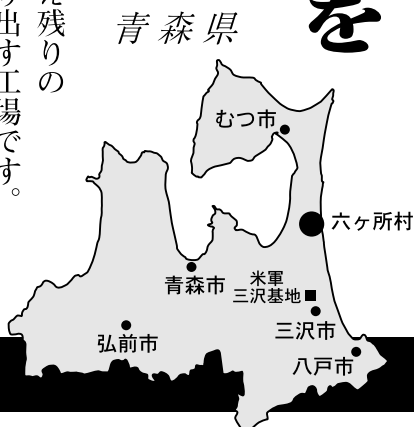
二〇〇四年四月

宇井純、宇沢弘文、奥平康弘、鎌田慧、小室等、

澤地久枝、土本典昭、暉峻淑子、中川李枝子、

灰谷健次郎、広河隆一、広瀬隆、松谷みよ子、

道浦母都子、森詠、山崎朋子、山中恒、湯川れい子



えいしかわけん

六ヶ所再処理工場の建設中止アピール事務局

原水爆禁止日本国民会議

東京都千代田区神田駿河台3-2-11 総評会館5F

☎03-5289-8224

原子力資料情報室

東京都中野区東中野1-58-15 寿ビル3F

☎03-5330-9520

**被害が起きる前に皆で反対しましょう!!**